

介護予防の推進に向けた運動器
疾患対策に関する検討会

平成19年7月13日

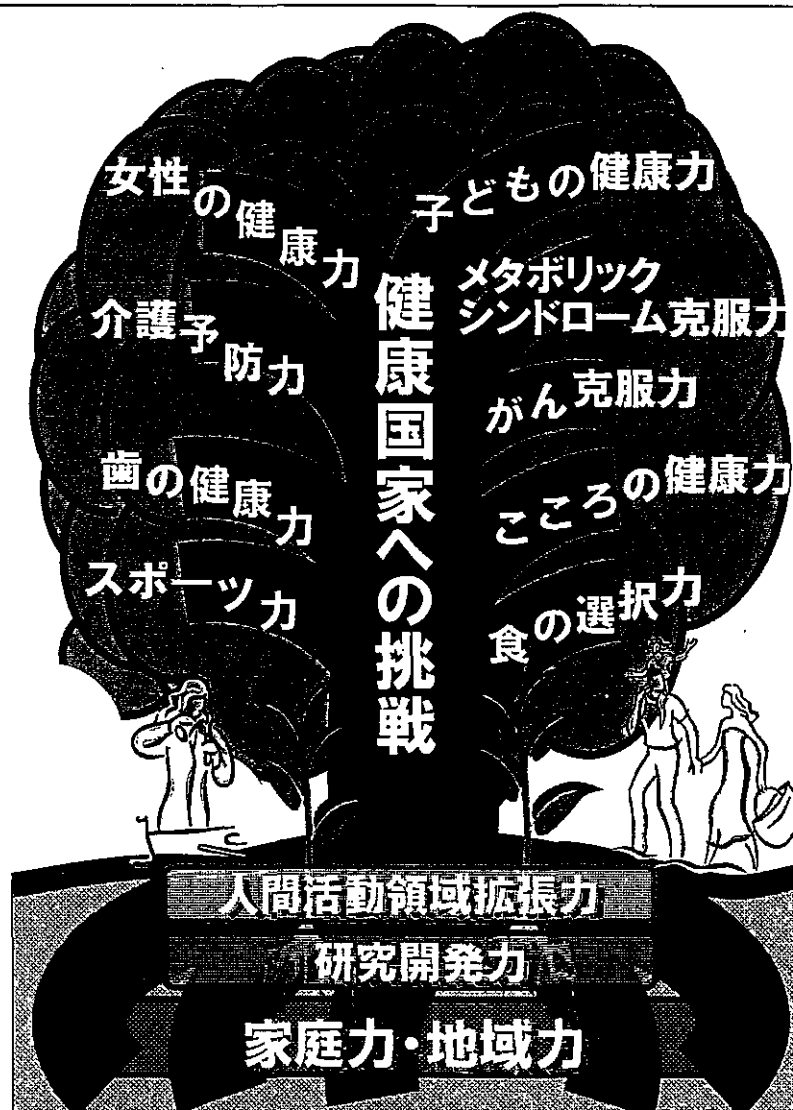
資料2

資料2：新健康フロンティア戦略について

新健康フロンティア戦略(概要)

内閣官房長官主宰の「新健康フロンティア戦略賢人会議」において「新健康フロンティア戦略」が平成19年4月18日に取りまとまった。

国民の健康寿命の延伸に向け、予防を重視した健康づくりを国民運動として展開するとともに、家族の役割の見直し、地域コミュニティの強化、技術のイノベーションを通じて、病気を患った人、障害のある人、年を取った人も持っている能力をフルに活用して充実した人生を送ることができるよう支援し、健康国家の創設に向けて挑戦していく(実施期間:平成19(2007)年度~28(2016)年度)



○戦略の推進に向けた国民運動の実施

- ・インターネットその他の媒体を活用して積極的に広報
- ・「健康大使」の任命等

○今後、実施計画(アクションプラン)を策定し、具体的な施策の実施を図る。

○戦略の進捗状況をわかりやすく表現するため、指標を作成。

【戦略のポイント】

(1) 国民自らがそれぞれの立場に応じて行う健康対策

① 子どもを守り育てる健康対策(子どもの健康力)

- ・子育て期の医師の就労環境の整備等、産科医療・小児医療の確保
- ・発達障害児等を支援するための妊娠期から子育て、教育、就労に至る継続的な支援の推進、発達障害児等に関する国民全体の理解の促進 等

② 女性を応援する健康プログラム(女性の健康力)

- ・過度なダイエットによる健康リスクに関する意識啓発
- ・休日夜間での健診の実施による受診機会の拡充等「女性のがん」への挑戦 等

③ メタボリックシンドローム対策の一層の推進(メタボリックシンドローム克服力)

- ・「食事バランスガイド」の普及・啓発、健康関連産業の育成、個人の特徴に応じた治療(テーラーメイド治療)の研究開発と普及等メタボリックシンドローム対策・糖尿病予防の重点的推進 等

④ がん対策の一層の推進(がん克服力)

- ・遺伝子技術等を用いた早期診断技術の研究開発などがんの早期発見の推進
- ・手術中心の治療から集学的治療への転換の推進など、がん医療の提供体制の充実 等

⑤ こころの健康づくり(こころの健康力)

- ・発症前後のカウンセリングを含めた支援体制の構築等、認知症対策の推進
- ・早期診断技術の研究開発等、うつ対策の一層の推進 等

⑥ 介護予防対策の一層の推進(介護予防力)

- ・介護予防に関する国民意識の向上、効果的な介護予防サービスの提供
- ・骨・関節・脊椎の痛みによる身体活動低下、閉じこもりの防止 等

⑦ 歯の健康づくり(歯の健康力)

- ・個人が行うセルフケアの推進及び歯科医師によるプロフェッショナルケアの推奨による8020運動の推進 等

⑧ 食育の推進(食の選択力)

- ・家族で食卓を囲んで一緒に食べる意義を見直す国民運動の展開、家庭、地域、学校、保育所等の連携の推進等、健やかな生活習慣づくりのための子どもの発達段階に応じた支援の推進 等
- ・健康を守る食に関する知識の普及・啓発等、思春期の女性に対する食育 等

⑨ 運動・スポーツの振興(スポーツ力)

- ・外遊びやスポーツを通じた子どもの体力の向上
- ・総合型地域スポーツクラブの全国展開等、一生涯にわたる豊かな「スポーツライフ」の実現 等

(2) 新健康フロンティア戦略を支援する家庭・地域・技術・産業

① 健康を家庭・地域全体で支援(家庭・地域力)

- ・ワークライフバランスの推進等、子どもがすくすく育つ家庭・地域づくり
- ・身近な場所で、気軽に情報入手や相談ができる体制の整備 等

② 人間の活動領域の拡張に向けた取り組み(人間活動領域拡張力)

- ・福祉機器など障害者の社会参加を容易にする技術等、生活拡張技術の開発
- ・カプセル内視鏡等、先進的予防・診断・治療技術の開発 等

③ 医療・福祉技術のイノベーション(研究開発力)

- ・医薬等ベンチャー・基盤産業支援対策、実用化における臨床現場と産学の融合推進
- ・医薬品・医療機器の承認審査の迅速化等、実用化における製品・技術評価の迅速化 等

新健康フロンティア戦略賢人会議メンバー

- 座長 黒川 清 内閣特別顧問
- 春日 雅人 日本糖尿病学会理事長・神戸大学医学部附属病院長
- 高橋はるみ 北海道知事
- 張 富士夫 トヨタ自動車株式会社取締役会長
- 土屋 了介 国立がんセンター中央病院院長
- 土井美和子 (株) 東芝 研究開発センター技監
- 服部 幸應 服部栄養専門学校校長・医学博士
- 増田 明美 スポーツジャーナリスト・元マラソン選手

分科会名簿(◎は分科会長)(肩書きは分科会当時)

(1)子どもを守り育てる分科会

- ◎黒川 清 (内閣特別顧問)
大杉 立 (東京大学大学院農学生命科学研究科教授)
奥山千鶴子 (NPO法人びーのびーの理事長)
神尾 陽子 (国立精神・神経センター精神保健研究所)
(児童・思春期精神保健部長)
土屋 律子 (東京都福祉保健局医療政策部医療政策課歯科担当副参事)
中島 洋子 (まな星クリニック院長)
服部 幸應 (服部栄養専門学校校長・医学博士)
藤本純一郎 (国立成育医療センター研究所副所長)
松平 隆光 (日本小児科医会副会長)
桃井真理子 (自治医科大学小児科教授)

(2)女性を応援する分科会

- ◎服部 幸應 (服部栄養専門学校校長・医学博士)
青木 大輔 (慶應義塾大学医学部産婦人科学教室教授)
阿部 啓子 (東京大学大学院農学生命科学研究科教授)
海原 純子 (白鷗大学発達科学部教授・医学博士)
霞 富士雄 (順天堂大学医学部附属順天堂医院乳腺センター長)
久野 譜也 (筑波大学大学院人間総合科学研究科スポーツ医学専攻助教授)
辻 一郎 (東北大学大学院医学研究科社会医学講座教授)
羽生田 俊 (医師・医学博士)
吉沢豊予子 (東北大学医学部保健学科臨床看護学講座教授)

(3)働き盛りと高齢者の健康安心分科会

- ◎春日 雅人 (日本糖尿病学会理事長・神戸大学医学部附属病院長)
- 青木 初夫 (アステラス製薬株式会社共同会長)
- 今村 聡 (日本糖尿病対策推進会議幹事)
- 岡田 明美 (兵庫県健康増進課長)
- 久野 譜也 (筑波大学大学院人間総合科学研究科スポーツ医学専攻助教授)
- 杉岡 洋一 (九州大学名誉教授・JST 研究成果活用プラザ福岡総館長)
- 辻 一郎 (東北大学大学院医学研究科社会医学講座教授)
- 土屋 了介 (国立がんセンター中央病院院長)
- 樋口 輝彦 (国立精神・神経センター武蔵病院院長)
- 中川 恵一 (東京大学医学部附属病院放射線科助教授・緩和ケア診療部長)
- 望月 真弓 (北里大学薬学部臨床薬学研究センター医薬品情報部門教授)
- 花田 信弘 (国立保健医療科学院口腔保健部長)

(4)人間活動領域の拡張分科会

- ◎土井美和子 ((株)東芝 研究開発センター技監)
- 伊福部 達 (東京大学先端科学技術センター教授)
- 小林英津子 (東京大学工学部工学系精密機械工学専攻講師)
- 杉岡 洋一 (九州大学名誉教授・JST 研究成果活用プラザ福岡総館長)
- 諏訪 基 (国立身体障害者リハビリテーションセンター研究所長)
- 西川 伸一 (理化学研究所発生・再生科学総合研究センター副センター長)
- 森下 竜一 (大阪大学大学院医学系研究科教授)
- (アンジェスMG(株)取締役)
- 和地 孝 (テルモ代表取締役会長)

6. 介護予防対策の一層の推進(介護予防力)

加齢に伴う生活機能等の低下は人間として避けがたい現象であるが、身体的な加齢に加えて、精神的な要因や傷病等がきっかけとなり、身体活動や摂食の低下によって引き起こされる、いわゆる「廃用症候群（生活不活発病）」は、適切な取組により改善が期待される。

生活機能が低下する前から、すなわち、高齢者のみならず働き盛りの時期から、生活機能の低下の予防（介護予防）に関する知識を持ち、取組を行うことによって、生涯を通じた生活機能の維持とともに、前向きに歳を重ねることにつながるものと考えられる。

(1) 介護予防に関する国民意識の向上、効果的な介護予防サービスの提供

① 「生き生き暮らそう」「お達者人生を目指す」等のキャンペーンの展開

- ・生活習慣の改善とも連携をとった普及啓発の展開
- ・国民が身近で運動、栄養、口腔ケア等に関する取組が気軽にできるような介護予防に関する普及啓発や市町村等の介護予防事業の推進

② 介護予防の効果を評価し、積極的に情報を発信

- ・科学的根拠（エビデンス）に基づいた介護予防情報の収集・分析・提供

③ 自分で生活機能の評価や維持・改善ができるツール等を開発・普及

- ・魅力ある介護予防プログラムや支援ツールの開発・普及

④ 介護予防のための具体的な運動・栄養提供・口腔ケア等のシステムとプログラムの開発・普及及びプログラム提供者の質的向上の推進

(2) 運動器疾患対策の推進、骨・関節・脊椎の痛みによる身体活動低下、閉じこもりの防止

① 骨折（大腿骨頸部骨折、脊椎圧迫骨折）の予防

- ・運動や食事等の骨粗しょう症予防に関する普及啓発と適切な治療の提供
- ・転倒による骨折の予防のための転倒予防プログラムの提供や使いやすい防護装具等の開発、実用化

② 膝痛や腰痛の予防及び治療と支援機器による痛みの緩和

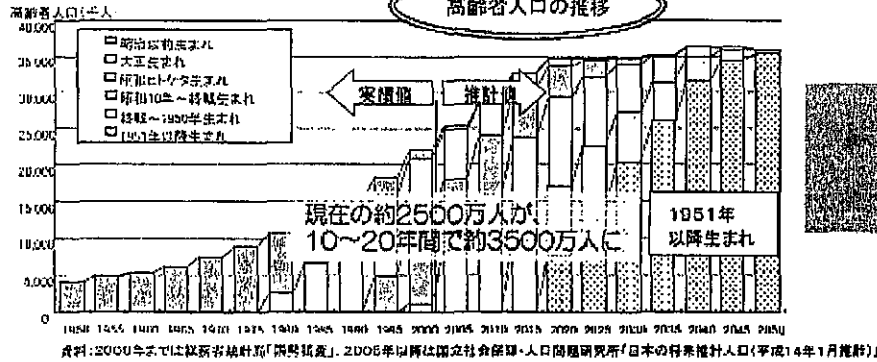
- ・変形性膝関節症、腰部脊柱間狭窄症の予防、検診、治療等の研究開発・実用化



介護予防力

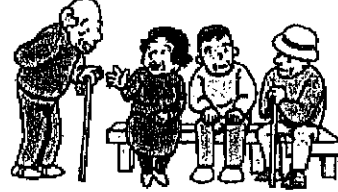


現在、超高齢社会の入り口にさしかかっています

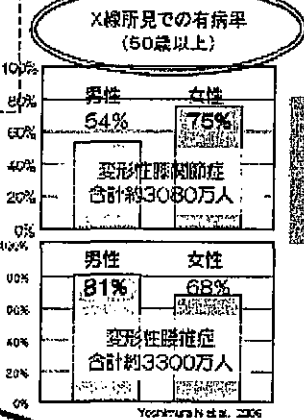


☆ 地域や国民全体で「生き生き暮らそう」「お達者人生を目指す」ための、運動や食事、口腔ケア等に取り組みや、すい環境づくりを推進!

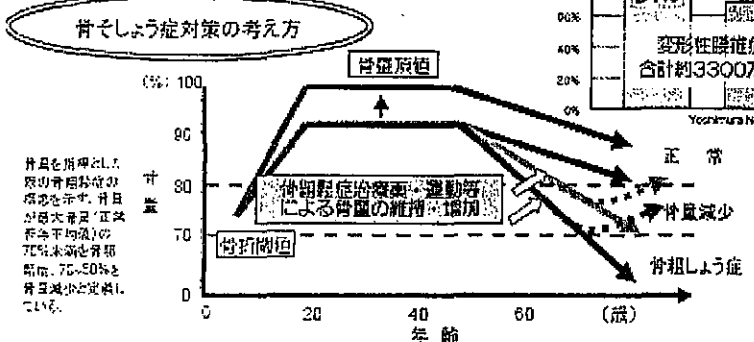
「からだ」と「気持ち」の老化を防ぎ、前向きに歳を重ねることを応援します!



「膝痛・腰痛で歩けない」→ 動きたいのに、動けない・動かないの悪循環で要介護、寝たきり高齢者が増加



骨量が少ないと骨粗しょう症に、さらには骨折をしやすくなる。



☆ 膝痛・腰痛の予防等の研究開発を促進し、痛みを訴える方を減らす!

膝痛や腰痛で「動かない・動けない」の状態となることを防ぎます!



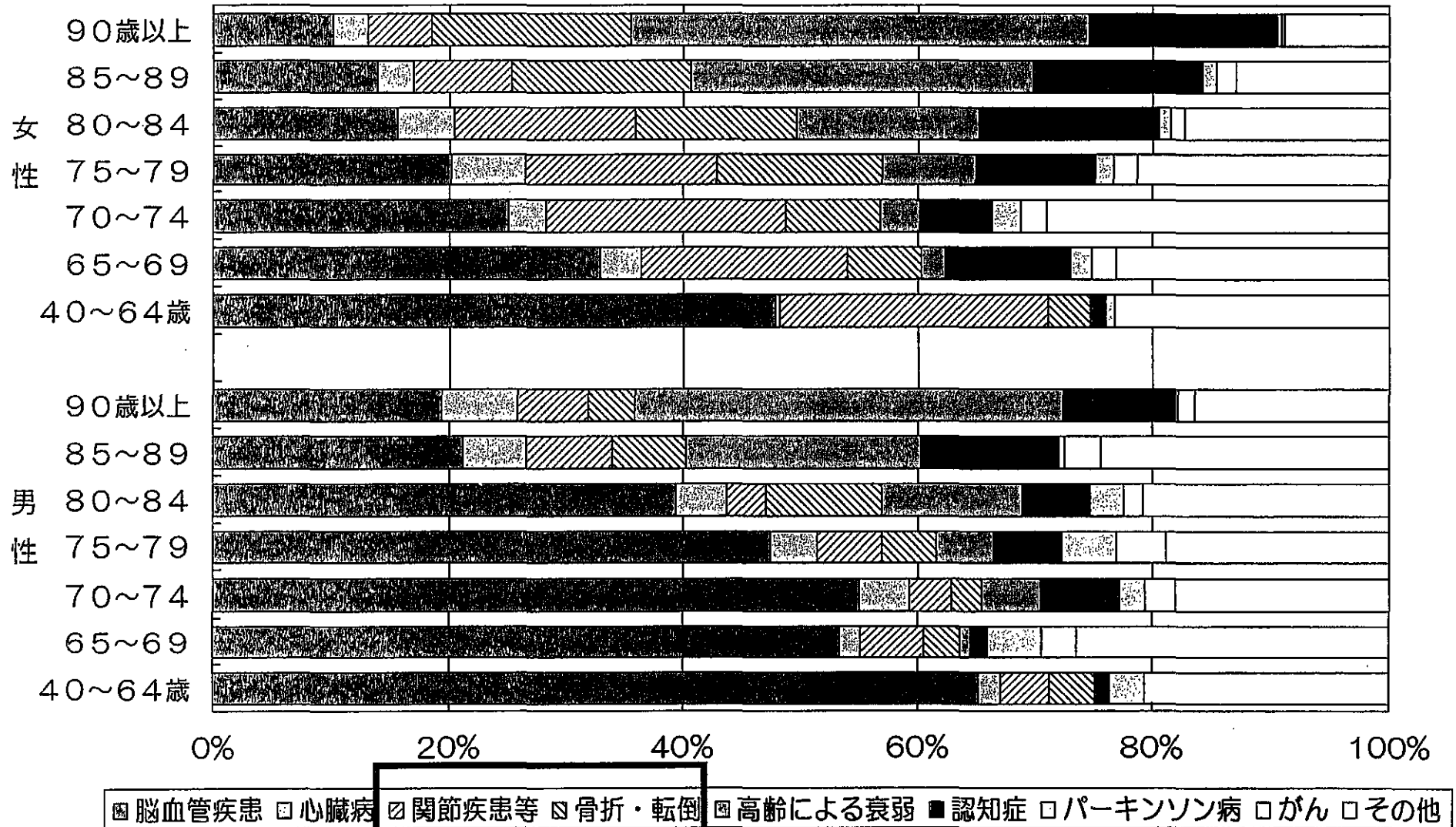
☆ 若い時期からの運動・食事等の対策を推進し、骨粗しょう症等を要因とした骨折の患者を減らす!

高齢者の骨折を減らします!

図表：新健康フロンティア戦略実行会議 第3分科会資料より一部改変

介護が必要となった主な原因

介護が必要となった主な原因別、介護を要する者の構成割合、性・年齢階級別



「健康フロンティア戦略」(平成16年5月19日与党幹事長・政調会長)
 戦略実施期間:平成17年から平成26年までの10年間
 戦略の目標:要介護者の減少・「7人に1人」を「10人に1人」へ

